RISTEX

コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン

Redesigning Communities for Aged Society

領域総括　秋山　弘子

東京大学　高齢社会総合研究機構　特任教授

第3回領域シンポジウム

2014年2月11日

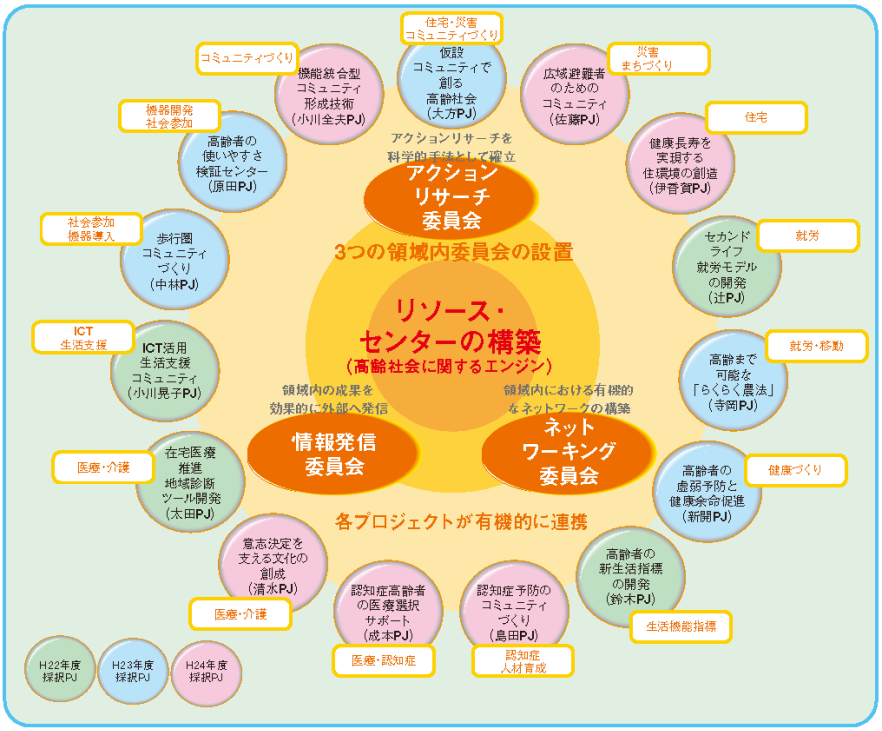
コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン

【背景】

・2025年には65歳以上の人口が総人口の3割以上となり、2010年と比べて全国で700万人以上増加すると見込まれている
・現状を正確に把握し、問題点を洗い出し、対策の検討に向けた研究開発を実施することが急務

【領域のアプローチ】

・人文・社会科学系分野と自然科学系分野とのバランスが取れた、複数分野に渡る広い知見に基づく取組み
・研究者と現場の関与者との連携
・現実の社会における問題の解決に資する具体的な技術や手法等の実証を伴った研究開発



領域目標

(A) 地域やコミュニティの現場の現状と問題を科学的根拠に基づき分析・把握・予測、実践的研究により、問題解決に資する新しい成果を創出
(B) 高齢社会に関わる研究開発の新しい手法、科学的評価のための指標等を、学際的・職際的知見・手法に基づき体系化、提示
(C) 研究開発拠点の構築、関与者間のネットワーク形成、継続的な取り組みや他地域への展開の原動力創出。多世代の理解促進

目指す社会像

① 自立期間(健康寿命)を延長し、アクティブシニアが活躍できる場を創る
② 住み慣れたところで日常生活の継続を支える生活環境を整備する

平成22年度採択プロジェクト　一覧

カテゴリー	題名	研究代表者	所属・役職	分野	コミュニティ	期間
Ⅰ	在宅医療を推進する地域診断標準ツールの開発	太田　秀樹	医療法人アスムス 理事長	医療	・栃木県栃木市 ・茨城県結城市	3年
Ⅰ	新たな高齢者の健康特性に配慮した生活指標の開発	鈴木　隆雄	独立行政法人　国立長寿医療研究センター 研究所長	評価尺度	・東京都板橋区 ・愛知県大府市	3年
Ⅱ	ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり	小川　晃子	岩手県立大学 社会福祉学部・地域連携本部 教授／副本部長	ICT 生活支援	・盛岡市桜城地区 ・盛岡市松園地区 ・岩手県滝沢村 ・宮古市川井地区	3年
Ⅱ	セカンドライフの就労モデル開発研究	辻　哲夫	東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授	就労	・千葉県柏市豊四季台団地地域	3年

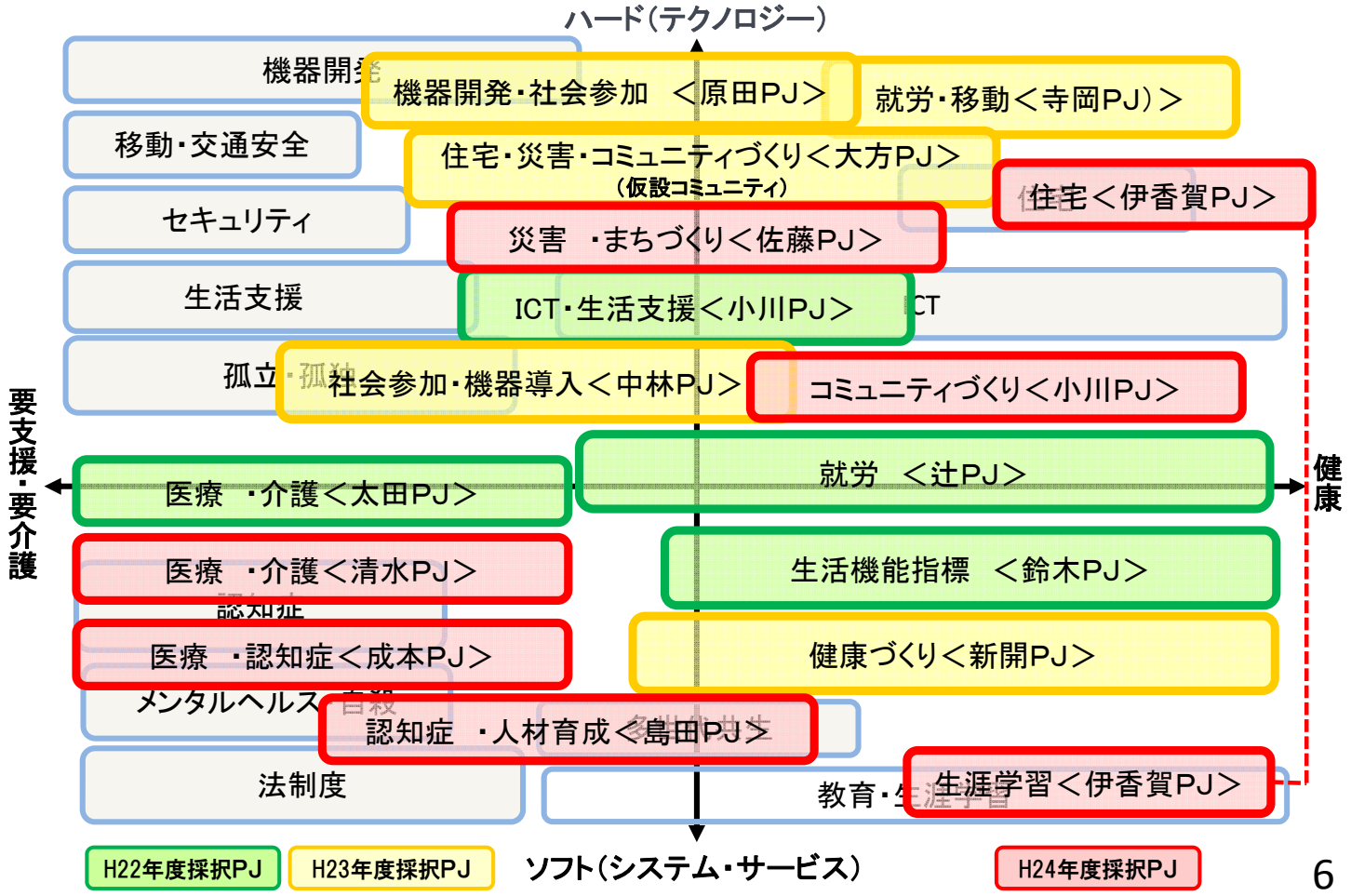
平成23年度採択プロジェクト　一覧

カテゴリー	題名	研究代表者	所属・役職	分野	コミュニティ	期間
Ⅰ	社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり	中林　美奈子	富山大学大学院 医学薬学研究部 准教授	機器導入 社会参加	・富山県富山市	3年
Ⅱ	「仮設コミュニティ」で創る新しい高齢社会のデザイン	大方　潤一郎	東京大学大学院工学系研究科　都市工学専攻 教授	コミュニティづくり 災害	・岩手県大槌町 ・岩手県釜石市 ・岩手県遠野市	3年
Ⅱ	高齢者の虚弱化を予防し健康余命を延伸する社会システムの開発	新開　省二	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長	健康づくり	・埼玉県鳩山町 ・群馬県草津町 ・兵庫県養父市	3年
Ⅱ	高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発	寺岡　伸悟	奈良女子大学 文学部 人文社会学科 准教授	就労 機器導入	・奈良県下市町 栃原地区	3年
Ⅱ	高齢者による使いやすさ検証実践センターの開発	原田　悦子	筑波大学　人間系心理学域 教授	機器開発 社会参加	・茨城県つくば市 ・山形県三川町	3年

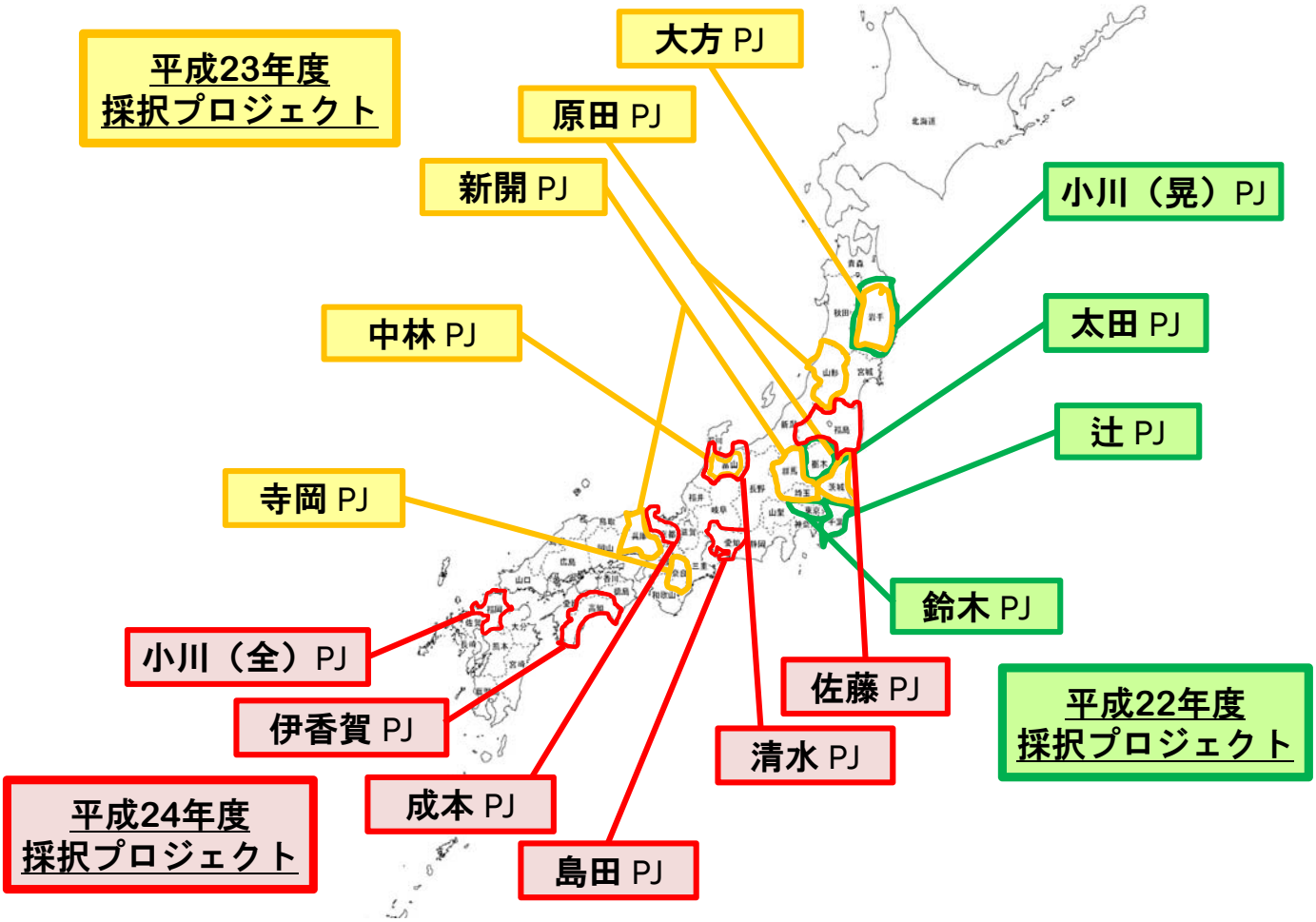
平成24年度採択プロジェクト　一覧

	題名	研究代表者	所属・役職	分野	コミュニティ	期間
Ⅰ	高齢者ケアにおける意思決定を支える文化の創成	清水 哲郎	東京大学大学院 人文社会系研究科 特任教授	医療 介護	・富山県砺波市	3年
Ⅰ	認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発	成本 迅	京都府立医科大学 大学院　医学研究科 精神機能病態学 講師	医療 認知症 尺度開発	・京都府丹後地域 ・京都市（上京区、岩倉地区）	3年
Ⅱ	健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造	伊香賀俊治	慶應義塾大学 理工学部 教授	住環境 生涯学習 健康づくりICT	・高知県高岡郡梼原町	3年
Ⅱ	広域避難者による多居住・分散型ネットワーク・コミュニティの形成	佐藤 滋	早稲田大学理工学術院 教授／総合研究機構 都市・地域研究所 所長	まちづくり 災害	・福島県（浪江町、二本松市）	3年
Ⅱ	認知症予防のためのコミュニティの創出と効果検証	島田 裕之	国立長寿医療研究センター 自立支援システム開発室 室長	認知症 人材育成	・愛知県大府市 ・愛知県名古屋市	3年
Ⅱ	2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術	小川 全夫	特定非営利活動法人 アジアン・エイジング・ビジネスセンター 理事長	コミュニティ デザイン	・福岡県福岡市	3年

採択プロジェクト　分野概略図



採択プロジェクト　実施コミュニティ一覧



採択プロジェクトへのサイトビジット

- 総括、アドバイザー、RISTEXスタッフが参加
- 各プロジェクトとも、1年度に最低1回以上実施
- プロジェクトの研究開発実施地域を訪問
- 意見交換や会議等に参加し、議論に加わる
- 他プロジェクトからの参加により、プロジェクト間連携も促進

領域内委員会について

1. アクションリサーチ委員会

目的：領域総括・領域アドバイザーおよびプロジェクトメンバーが協働し、
コミュニティにおけるアクションリサーチを科学的な手法として確立する

進捗：これまで14回の委員会を開催。文献整理、外部有識者による講演等を実施。
アクションリサーチの入門書の出版（東京大学出版会）に向けて作業中。

2. 情報発信委員会

目的：領域内における情報共有のあり方、ならびに領域の成果を
より広く、より効果的に社会に展開していく情報発信のあり方を検討する

進捗：これまで5回の委員会を開催。プロジェクト一般化のための情報整理フォーマット
を作成し、各プロジェクトに記入を依頼。

3. ネットワーキング委員会

目的：領域内のプロジェクト間の有機的なネットワーク、また領域と他の取り組みとの
ネットワークの構築を目指す。

↓

コミュニティの高齢化課題解決リソースセンター構築を目指す

アクションリサーチ委員会

目的：領域総括・領域アドバイザーおよびプロジェクトメンバーが協働し、
コミュニティにおけるアクションリサーチを科学的な手法として確立する

- ■ 委員会活動にて得られた知見をプロジェクトの取り組みに活かす。
  - ロ 小川（晃）PJでのフォーカスグループインタビューの実施
- ■ アクションリサーチの入門書の出版（執筆中）

『超高齢社会におけるコミュニティの創造－アクションリサーチへの招待－（仮）』
序章　本書の狙い
第1章　アクションリサーチとは何か
第2章　社会的課題の発見と解決に向けて準備する
第3章　課題解決に向けた地域での実践
第4章　評価と成果の波及
第5章　研究成果の発表－いかにして論文や報告書にまとめるか
第6章　記録方法

第5回委員会（集中的研究会）の様子

情報発信委員会

目的：領域内における情報共有のあり方、ならびに領域の成果を
より広く、より効果的に社会に展開していく情報発信のあり方を検討する

アクション全体のプロセス【段階0～段階Ⅳ】

活動項目

質問項目

活動を実施した時期とそのプロセス・結果	活動経験から言える【一般化のためのヒント】
時期については半年単位（【H25上】、【H25下】）で記入、 時期に引き続き、質問に対応して活動内容や事実を簡潔に記載 ※PJ特有の内容で可	◎ 参考にすべきこと・成功の秘訣： 悩ましかったがこのように克服・解決した等 × 失敗談・留意すべきこと／改善要望： こんな失敗をしたので留意すべき、こんなサポートがあるとより効率的・効果的だった等の改善要望等

0 【地域背景】 企画策定に至る経緯と地域資源・・・企画策定に至るまでの対象地域との歴史的背景（長期のもの）、対象地域に特徴的な資源について

A 地域背景

① 企画策定に至る経緯 企画策定に至るまでのこれまでの経緯・対象地域との関係

② 地域資源 対象地域に特徴的な資源としてどのようなものが存在したか、またそれをどう活かしたか

Ⅰ 【創成段階】 構想・企画立案～コア体制づくり・・・プロジェクトの開始に係る企画策定をどのように行うか、コアの体制づくりをどうすればいいのか

B 企画策定

① 課題設定および解決策構想の背景 社会実験を行う課題（高齢社会に関連したもの）、および解決策の構想をどのような背景から設定したか

※本委員会で検討中の「一般化のための情報整理フォーマット」（一部）

ネットワーキング委員会の活動と構想

目的：領域内のプロジェクト間の有機的なネットワーク、また領域外の活動・組織との
ネットワークの構築を目指す⇒”コミュニティの高齢化課題解決リソースセンターの構築”

※下記の組織等は例示したもの。現時点で何らか提携等の取り交わしは行っていない

＜コミュニティの高齢化課題解決に向けた活動・組織と連携する＞

行政／まちづくり

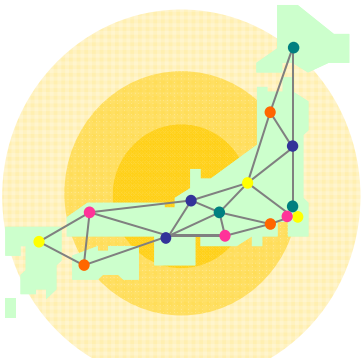
- 内閣官房 環境未来都市構想

学術・研究
ジェロントロジー推進組織

- 日本老年学会（7団体）
- 国立長寿医療研究センター
- 東京都健康長寿医療センター
- 東京大学 高齢社会総合研究機構（IOG）
- 桜美林大学大学院
- 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- ⋮

＜ネットワーク拠点＞

JST／RISTEX
（社会技術研究開発センター）
「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」領域



JSTプロジェクトを有機的につなぐ

JST／Sーイノベ
（戦略的イノベーション創出プログラム）
高齢社会を豊かにする科学・技術・システムの創成事業

マルチステークホルダー／事業

- プラチナ構想ネットワーク
- プラチナ社会研究会（三菱総合研究所）
- 東京大学 産学連携 ジェロントロジーネットワーク（60社）
- 高齢社会検定事業（高齢社会検定協会）
- ジェロントロジー・フォーラム（ニッセイ基礎研究所）
- Gerontology Life design Lab
- ⋮

『コミュニティの高齢化課題解決リソースセンター』の概要・イメージ

社会のニーズ

【地域】各地域特有の課題

【企業】各業界・企業特有の課題

【その他】住民・NPO・諸団体の課題

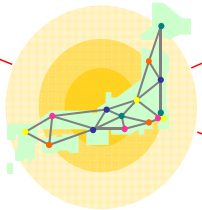
コミュニティの高齢化課題解決リソースセンター

目指す拠点イメージ

超高齢未来のための課題解決型
アクション支援拠点
～長寿を喜べる生きがい創出と
持続的な社会システムづくりを推進～

主なミッション

Ⅰ．まちづくりアーカイブ作成
Ⅱ．現場への啓発・情報提供・支援
Ⅲ．科学的エビデンスに基づく政策・施策提言
Ⅳ．国際的拠点形成
Ⅴ．リビング・ラボ　等



ソーシャル
イノベーション
エンジン

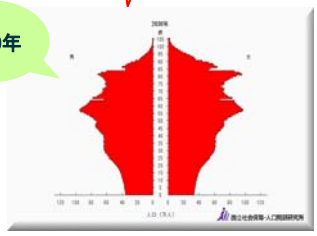
高齢化課題解決に資する情報・知財を集約
社会のニーズに応える最適な解決策の提示等

＜センターが有する知財パッケージ（例）＞

- 高齢者の就労・社会貢献
- 高齢者の社会参加推進策
- 高齢者生活支援策
- 高齢者の移動問題解決策
- 健康長寿・虚弱化予防策
- 地域包括ケア推進策
- 認知症ケア・予防策
- ENJOY・快適生活支援策

⋮

2030年



～笑顔溢れる未来社会づくりへ～

リビング・ラボ
～市民との共創によるイノベーション～

コミュニティの高齢化課題解決
～笑顔溢れる未来社会づくりへ～